いすのまぎ

石巻カルタ

企画書

2013年6月

いすのまぎ
石巻
カルタ

主 旨

石巻の人による、石巻の人のための、石巻カルタ。
震災そのものを出発点とした「復興」、外部からの協力を前提とした「支援」といった観点で語る「ISHINOMAKI」ではなく、もともと郷土にあった原風景や暮らしの情景、そして文化風習を尊び、その土地に育った人の視点から表現する『いすのまぎ』を、カルタの中に。
自由大学・東北復興学の講義から生まれたこのチャレンジには、石巻はもちろん日本各地の出身者が製作に参画します。しかし、カルタの中に込める“あるある”については、石巻出身者（あるいは石巻をよく知っている方）の協力がいぎなし重要です。そこで、この思いに賛同いただける『いすのまぎ』の方からのご協力をお願いしている次第です。

東北復興学について

私たちは、自由大学「東北復興学」第４期メンバーを中心にした
「石巻カルタ製作実行委員会」です。

東京･世田谷区の廃校にある自由大学（＊1）は、「大きく学び、自由に生きる」をテーマに、IT、出版、旅、ライフスタイル、これからの働きかたなど様々な講義を展開している、いわば大人の学校。
その講義のひとつに、「東北復興学」があります。

「東北復興学」は、宮城県仙台市出身の大内征が講師となってスタートした、今後の東北あるいは自分の故郷との付き合い方について考える講義です。
東日本大震災をきっかけに、東北との「つながり方」を模索するメンバーが受講し、講義や被災地を通した地域体験を行いながら、これから自分がどのように東北と向き合っていくかについて考え、『具体的な一歩』を踏み出す場や機会となっており、東北復興学第４期は 2013 年３月～４月にかけて開講されました。

＊1 自由大学
http://freedom-univ.com/

「大きく学び、自由に生きる」をテーマに、知的生命力がよみがえるユニークな講義を展開する学びの場で、廃校（池尻中学校）をリノベーションした世田谷ものづくり学校をメインキャンパスに、自ら考え、自ら行動する姿勢を育む場所を創っています。2009 年の開校以来、時代が求める様々なテーマで 100 種類以上の講義を開講。
のべ 4000 人を超える人が、学び、笑い、考え、ちょっと自由になっています。

「石巻へ帰るのが、正直怖い」

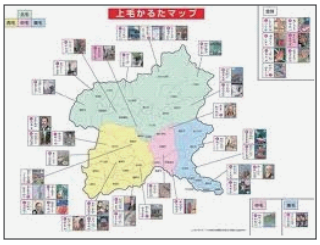
2013 年 3 月～ 4 月にかけて開講された東北復興学第 4 期に、石巻市出身の浅野郁美が参加していました。
彼女は、震災後の自分の気持ちについて、とつとつと語りました。
震災で家族は無事だったものの、実家が流されてしまったこと。
震災後に実家へ初めて足を踏み入れた時の衝撃。
自分が育った町であるはずの石巻が、変わってしまったことの寂しさ。
自分の知らない町「ISHINOMAKI」がスタンダードになってしまうことへの違和感。
そして、石巻へ帰るのが正直怖い、と、言いました。

「それでも自分は石巻とつながっていたい」

「自分が育った町･石巻」へ思いを寄せながら、浅野と同じような気持ちで帰りにくくなっている人は他にもいるのでは。
浅野が講義の最後に言った「それでも自分は石巻とつながっていたい」という気持ち。
「何らかの方法で、育った町をいつも感じていたい」という気持ち。
そこで例に出たのが、群馬県で子ども時代を過ごした人ならだれでも知っているという「上毛かるた (＊2)」でした。

＊2 上毛かるた

群馬県の土地、人、出来事を読んでいる「上毛かるた」は、毎年県の競技会も行われる郷土かるた。群馬の歴史、文化を伝えたいという趣旨から、群馬県の著名な人物、地理、風物、名産品などが幅広く読まれています。



自分が過ごした石巻での当たり前の毎日を、今考えればクスッと笑ってしまうような思い出もあわせてまとめ、みんなで遊ぶことで、「自分の石巻」を思い出しつながっていけるのではないか。

石巻に住んでいる方には、石巻の原風景を感じていただくきっかけに。
町を出ている石巻出身の方には、自分が育った「自分の町・石巻」を思い出すきっかけに。
震災後に石巻に行った方には、ISHINOMAKI ではない以前の石巻を知っていただくきっかけに。
石巻を知らない方には、素朴でのんびりした魅力ある町・石巻に興味を持っていただくきっかけに。

「石巻カルタ」が、「そうそう！そうだった！」「そうなの！？」と思わず笑顔になるような、多くのきっかけを作っていけるものになったらと、願っています。

石巻カルタ製作への思い

発起人
浅野郁美
（石巻市出身）

2011年３月、震災で帰るべき実家が突然なくなりました。津波の後の景色を目の当たりにした時、石巻がどんな町だったか思い出せなくなってしまいそうでした。

石巻で暮らしている間は、わざわざ思い返すこともなかったような、
たわいもない石巻についてのこと。
そんな石巻“あるある”を誰かと共有することで確かに自分はここに住んでいた、自分が育った町だった、と石巻とつながっていたい想いが自分にある事に気付きました。

石巻に住んでいれば「当たり前のこと」となっているような石巻の良さや文化。
それらを改めて発見し、共有することのできるこのカルタが、石巻の人たちをつなぐものになればと思っています。

そして津波だけじゃない、こんなに面白い石巻を誇りに思ってほしいと思います。

石巻のおんちゃんに「おめだづ、くだんねーもんつぐったな」と
少しでも笑ってもらえればそれもそれで嬉しいです。

石巻カルタ製作実行委員会 メンバー

浅野 敦司	あさの あつし	浅野 郁美	あさの いくみ
足立 真利	あだち まり	伊藤 あづみ	いとう あづみ
岩田 克一	いわた かついち	梅山 優美	うめやま ゆみ
大内 征	おおうち せい	金井 路子	かない みちこ
菊地 直子	きくち なおこ	関 剛志	せき つよし
高橋 奈保子	たかはし なおこ	高松 歩由	たかまつ あゆ
竹内 淳子	たけうち じゅんこ	中野 香織	なかの かおる
廣野 真理	ひろの まり	本間 庸介	ほんま ようすけ
水澤 充	みずさわ みつる	光武 明子	みつたけ あきこ

石巻“あるある”ネタ収集のお願い

カルタのもとになる、石巻ならではのネタを集めています。
特に、「普通に暮らしていると、あまりに日常すぎて気付かないようなこと」を是非お聞かせください！
「石巻はこうだった。」「そうだった！」と、どんなに小さなことでも、そこに共感する石巻に育った方がいるはずです。
ご協力、どうぞよろしくお願い致します。

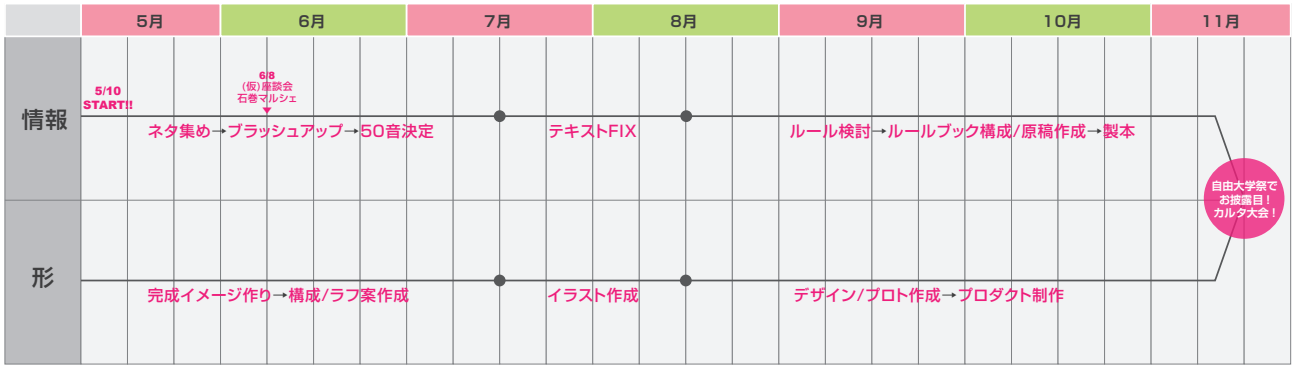
石巻“あるある”とは？

石巻に住んでいるからわかる、ローカルな常識、話題など。

例えば…

☞ 雨が降るかは匂いでわかる。
☞ 親には「橋の下で拾ってきた」ではなく「魚の網に引っかかってた」といわれる。
☞ 川村孫兵衛はスゴイ人だ。
☞ 川開き祭りは全員参加。
☞ ある日突然、市役所がピンクの建物に。
☞ 市民プールで泳いだ帰りに大福を買ってしまう。
☞ ゴミは「捨てる」ではなく「投げる」という。
☞ 実は日本人初の世界一周を成し遂げたのは石巻人。　　などなど。

石巻カルタ 製作スケジュール

・５月～７月半ば　　ネタ集め、デザインラフ案、
・７月半ば～８月半ば　テキスト、イラスト作成
・８月半ば～　　ルール検討、プロダクト製作

11 月の自由大学祭での第一弾お披露目を予定しています！